

謹弔

次の会員がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

松尾栄一	氏	下関市医師会	2月25日	享年	96
河合伸也	氏	山陽小野田医師会	2月27日	享年	82
瀬戸信夫	氏	山陽小野田医師会	3月3日	享年	72

編集後記

(これまでのあらすじ) 老後の趣味にトレッキングをと思いついたが、山の駐車場で激突してきた虫に怖気づき断念。しかし家人からのプレッシャーに負け、ついに山行きを決意する。

まずは、「登山初心者の高齢夫婦が遭難！」などの騒ぎを避けること。救助要員として若いのに招集をかける。体を動かすことなら何でもこいの娘と最近カメラに凝っているの山の写真を撮りたい息子。お弁当は、おにぎり、玉子焼き、ウインナー、冷凍枝豆。挑むのは山口の名峰、亀尾山、標高32,500センチ（ここは、NHKのグレートトラバース風に）。

3月の日曜は、いいお天気で山日和。息子が「縦走する」と言っていたので、山の尾根をチームが一行に歩く姿を想像する。記念写真になりそう。アマゾンでカメラ付きドローンの値段を調べたことは告白するが、流石に買ってはない。新品のトレッキングウェアに身を固め、登っていく。五感を研ぎ澄まし、鳥の囀り、草の匂い、小さな花の可憐さを受け取る。順調に頂上に到達。秋穂の海を見ながらのお弁当の美味しいこと。

第一回目の登山は大成功と帰途に就くが、道が上り坂になっている気がする。不審に思い先頭の息子に聞いたすと、おふくろ、縦走とはいくつかの山を登ることや、今から次の山に登るぞと、とんでもないことを言う。縦走ってそんな意味だとは。不覚であった。「なんで山を二つ登るのか。一つで充分。スタミナ配分の計画が狂う」と訴える私を無視し他の三人は勝手に前進するので、ついて行くしかない。15分おきに休憩を要求する私に、家人は「近道」の札が立った険しい斜面を指さし、ここを転がっていくと早いぞと言う始末だ。そのうち昔話に出てきそうな岩山を太い鉄鎖を頼りによじ登る羽目になる。ほとんど修験者で私はこの辺りから無の境地に到達していた。

山路を下りながら、こう考えた。確かに山頂からの景色は素晴らしいしお弁当も美味。が、その前後が辛い、辛すぎる。どうせなら最初から最後まで楽しいほうが良くないか。なによりも登った分だけ、徒歩で下らないといけない。山にはタクシーがない。ここに根本的な問題がある。山登りは身体と精神の鍛錬になることに否やはない。前途ある若者にお勧めしよう。ただ、私自身の趣味にするかは、今後検討したいと思う。

(常任理事 長谷川奈津江)